

コロナ禍で思うこと

理事 神山真一

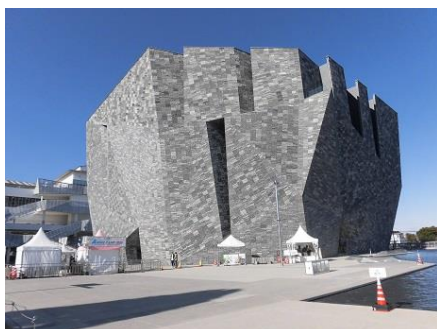
私は 21 世紀水倶楽部に入会し 5 年近くになります。入会后 2 年目から理事として会の活動に関わるようになりました。前職が埼玉県職員で比較的下水道関係に長く在籍していたので会員の中には当



時いろいろとお世話になった方が多くおられます。住まいは埼玉県越生町おごせまちで東武東上線を利用して都内まで通勤しています。越生町は昔から越生梅林や黒山三滝といった観光名所で知られたところですが、水倶楽部の多くの方から返ってくる言葉は「クリプトスポリジウム感染症が起きたところですね」ということになります。平成 8 年 6 月に発生したクリプトスポリジウム感染症は、水道水が感染経路となり町の約 7 割の人が感染し、私も被害者の一人となりました。

今回の新型コロナウイルスでは、感染症対策を契機として生活スタイルや経済のしくみが変わろうとしています。私のように 2 時間もかけて感染リスクが高い都内へ通勤する人は、だんだん少なくなっていくのではないかと思います。

話は変わりますが、このコロナ禍の中で埼玉県所沢市の下水道処理場跡地に「ところざわサクラタウン」が 11 月 6 日に全てオープンとなりました。写真にあるように建築家の隈研吾氏が設計した「角川武蔵野ミュージアム」がシンボリックな



存在となっています。所沢市は昭和 32 年県下で 10 番目に下水道整備に着手した市ですが、荒川右岸流域下水道に接

続したことにより所沢市の下水道処理場が廃止されました。本県の流域下水道は当初の計画から流域関連市の全ての単独処理区を流域下水道計画に含めた形で整備を進めてきました。下水道の歴史を振り返る時、下水道処理場の廃止は寂しさもありますが、流域下水道が新たな価値を生み出したとも言えます。広域化・共同化が必要となった今、当時の先輩達は先見の明があったと思わずにはいられません。人生 100 年時代と言われておりますが、下水道施設も同じようにどれだけ長い間、健康長寿でいられるかということが重要です。耐用年数という物差しではなく、I o T ・ A I 等を活用し施設を健全な形で持続させるための新たな維持管理が必要になっています。そのためには下水道の将来を俯瞰し多様な視点と信念を持って様々な課題に取り組む姿勢が重要だと思います。変化の激しい時代の中だからこそ、水倶楽部のような縦割りや縄張りに縛られない N P O ならではの活動が期待されているのではないのでしょうか。

2020 年度活動報告

「ビストロ下水道」オンライン研究集会

顧問 清水洽

11 月 17 日（火）午後、令和 2 年度の研究集会を「ビストロ下水道・リーダー座談会～リーダー都市の熱いスーパー公務員の秘密を探る～」のテーマにて、Zoom を用いたオンライン方式により開催した。主会場の三水コンサルタントの会議室に主催者 11 名が集まり準備した。オンラインでの開催時には参加者

53 名があり、さらに会場にはマスコミの方 3 名が加わった。最初に N P O の佐藤和明理事長がオンラインでの挨拶と資源活用型下水道システム部会の紹介後、N P O 理事の栗原秀人氏



の司会のもと研究集会が始まった。

イントロダクション講演は「ビストロ下水道の魅力～パトンをつなぐ難しさと楽しさ」を題目に東京大学下水道システムイノベーション研究室准教授加藤裕之氏よりリオデジャネイロオリンピック陸上 400m リレー 4 選手のスライドを示し、ビストロ下水道を発展させるには下水道一住民・消費者一八百屋さん、レストラン―農家との団結と信頼によるパントンタッチが大切だ」と結ばれた。

次いで経験者紹介として山形県鶴岡市から会場に参加していただいた鶴岡市下水道課長有地裕之氏から「食文化創造都市の BISTRO 下水道」を題目に零下 1 度での農業に下水消化発電と余熱利用や、下水処理水でのアユの養殖の苦勞とにおいのない下水汚泥コンポストの紹介があった。

引き続き、オンラインによる経験者紹介で、佐賀市上下水道局環境政策調整監前田純二氏より「佐賀市におけるビストロ下水道～地域の未来に笑顔をつなぐ循環型下水道～」と題して、佐賀市の PR ビデオと YM 菌による発酵温度 90℃の無臭コンポストにより農業革命が起こり、下水道から地域資源の創出・資源循環省エネ+創エネを進めることが出来ているとの講演があった。

最後の経験者紹介もオンラインで、北海道岩見沢市水道事業担当部長寺田智勝氏より「岩見沢市におけるビストロ下水道～北の大地で熱い農家と描く夢の戦略～」と題して、平成 22 年度より下水汚泥の農業利用に取り組みビストロ下水道に参加して、発酵、ヒト、農業、下水道の連携を広め、人と人の繋がりがビストロ下水道の基本であるとの講演があった。

総合討論では NPO の会員でもある加藤裕之氏の司会により 3 市の講演者への質問と意見交換が行われた。



NP021 世紀水倶楽部の研究集会としては初めての Zoom オンライン講演会だったので、11 月 5 日には予行演習として会場と

それぞれ講師の方々とのオンラインによる講演資料のビデオやパワーポイントの作動状況の確認等を進めていたが、今回は大きな問題も起こらず無事終了することが出来た。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

オンライン東京湾大感謝祭 2020 の動画出展

顧問 亀田泰武

例年秋に横浜赤レンガ館周辺で開催されていて、21 世紀水倶楽部もテントの一部に場所をもらって出展していましたが、2020 年はコロナ感染のためオンラインでの開催となりました。ウェブ上で、ニュース、トークショー、展示、動画コーナーなどが載っています。開催期間は令和 2 年 10 月 1 日(土)～25 日(日)ですが、一部は 2021 年 9 月末まで公開されています。<https://tokyobayfes.jp/>

今年の春まで通例開催を予定していましたが、7 月に中止が決まり、フォーラム企画出展(NPO・市民団体出展)から動画出展の打診があり、出展を希望しました。

動画ですが、例年の水倶楽部活動紹介だけでは見てくれなさそうだったので、ドラえもん和多摩川のクイズを入れることにしました。動画の手持ちは奇跡の一枚くらいで、静止画を動画風にすることで制作しました。

題名は「NP021 世紀水倶楽部へようこそ」で、その内容は漫画ドラえもんにたびたび登場する土管の正体と泡だらけの多摩川の写真がいつ頃であったかのクイズ、出前授業やイベント出展の状況、鉄道トイレ、水回りの記憶や、奇跡の一枚クマムシの動画などの紹介HPで、5分35秒。ユーチューブに載せていて、奇跡の一枚チャンネルのなかにあり、URLは、

<https://www.youtube.com/watch?v=16IcjpwQIXk>

大感謝祭ではこれをコピーして載せているようです。

動画内容は水倶楽部の活動紹介で、当然使えるので、PR で使っていただけると幸いです。水倶楽部HP>下水道なんでものニュースのところリンクを貼っています。

写真右は

バスオール(室内に置くお風呂)

思い出の記-事業・人>水回りの記憶
>水回り昭和の記録 安藤茂元理事
長の提供



オンライン推進分科会「Zoom 分科会」

Zoom 分科会事務局 齋藤 均

1. はじめに

当水倶楽部も「部会・研究集会」にて、オンライン会議システム「Zoom」を活用し、活動を行う事になりました。これに伴

い7月に「オンライン推進分科会：Zoom 分科会」を設立しました。メンバーは、会長：押領司理事、会員：阿部（洋）理事、神山理事、事務局：齋藤均です。分科会では、水倶楽部の「オンライン会議」をサポート・会員の Zoom 利用の積極的普及を行います。

2. これまでの活動

7月下旬、主に初心者への「Zoom 接続練習」を行いました。本接続練習により、参加者全員が Zoom を利用する事が出来る様になりました。

また8月31日に、多人数での『Zoom 接続試験』を行いました。約30名の会員が参加し、全参加者が無事に「ホスト PC」に接続する事が出来ました。試験では、佐藤理事長より「昨今の社会情勢を鑑み、水倶楽部でも積極的にオンライン会議を導入し、会の活動と会員間の交流を図る」との挨拶がありました。また、村上理事より「下水道と病原菌感染」についての講演がありました。講演内容は、公衆衛生の概念・下水道の普及と、中世ヨーロッパでの「コレラの感染拡大」さらに「新型コロナウイルスの感染」についてと、「伝染病拡大防止と下水道の役割」に関する事で非常に興味深い物でした。講演中に村上理事より「公衆衛生とコレラの感染」に関するクイズがありました。回答は Zoom の「チャット」機能を用いましたが、チャットをご存じ無い・使えない参加者が居ました。事前配布した「簡単マニュアル」に、チャット機能の記載が抜けていたので、同機能を含めた改訂版の作成を検討中です。

3. 『Zoom 接続試験』の結果とオンライン研究集会の開催

「Zoom 接続試験」は、参加した会員皆様から高評価を得る事が出来ました。音声等に問題があった事を改善点とし「ビストロ下水道研究集会」のオンライン開催に向け弾みが付きました。

4. 今後の対応

現在、水倶楽部の約半数の会員が、Zoom を利活用出来ないのでは？という懸念があります。今日の社会情勢下、今後の水倶楽部研究集会は「オンライン開催」が主流になります。これらの研究集会に会員皆様が不自由を感じる事なく参加出来るように、ご要望に応じ初心者への「Zoom 接続練習」等を適宜行う予定としております。よろしくお願ひします。

ビストロ下水道研究集会「オンライン開催編」

Zoom 分科会事務局 齋藤 均

去る11月17日(火)、SKG 部会主催による「ビストロ下水道研究集会」を、オンライン開催で行いました。研究集会の内容自体は、SKG 部会からの報告を参照。Zoom 分科会からは「オン

ライン開催」に関する事項を報告します。

本研究集会在、初の「オンライン研究集会」でした。結果から言えば「成功」の範疇との評価を、主催者の方々から頂きましたが、実際はかなり綱渡り状態でした。まず水倶楽部側で、Zoom ホストとして頼りにしていた押領司会員が、事由により自宅からリモート参加になった事。さらに、パネリストの方1名も、代役の方が発表する事になりました。発表者各位のプレゼン資料は、Zoom ホストが「画面共有機能」を用い、発表する予定でした。しかし、パワーポイントの資料が「押領司会員の会社 PC」に入っていたため、第3者がアクセスできない状態に！急遽、代打の齋藤が、事前配布の「PDF ファイル資料」を用い「画面共有」する事になりました。また、データを「齋藤の個人 PC」に保存していたので、齋藤 PC が会場「三水コンサルタント社内 LAN」に接続出来ない状況に！三水コンサルタントの「社内セキュリティ」を考慮すれば、『社員以外の個人 PC』を社内 LAN に接続出来ないのは当たり前でした。緊急対策で、齋藤 PC を無線 Wi-Fi にて外部接続し、研究集会を乗り切りました。その他、①スライド切替えに「タイムラグ」が生じた、②画面共有で「コントロールバー」が消せなかった、③会場マイクで「ハウリング」が生じた等、思い返せば『幸い』成功出来たと、冷や汗三斗です。「ビストロ下水道研究集会」にオンライン参加した会員の皆様は如何でしたか？ご要望・改善希望点がございましたら、齋藤までご連絡頂ければ幸いです。

今回のオンライン研究集会における一番の反省点は、押領司会員に Zoom 運用を全て任せていた事です。リスク分散「パワポ資料を、他に共有するなど」すべきでした。また、齋藤自身の Zoom 操作習熟不足がありました。一度研究集会を開催すると「問題点・要改善点」が多々出ます。今回の「ビストロ下水道研究集会」オンライン開催が初の試みであったので、とりあえず「合格点」を頂けた感じです。次回は「雨水貯留管マネジメント研究集会」をオンライン開催します。今回の反省を踏まえ、より良い研究集会が開催できる様、鋭意努力して行く所存です。

オンライン推進分科会より YouTube URL のご紹介

Zoom 分科会事務局 齋藤 均

昨今の社会情勢により、当水倶楽部が参加協力している各種催事も、本年は「オンライン開催」される事となりました。毎年参加しておりました「東京湾大感謝祭」もオンライン開催されました。その中で亀田顧問作成の YouTube 動画集「奇跡の一枚」の中から紹介をしました。

奇跡の一枚：YouTube 動画集 亀田泰武 顧問作成。

水倶楽部の活動紹介ならびに、クマムシの捕食・脱皮など貴重かつ興味深い動画を掲載しています。

https://www.youtube.com/channel/UC80AiUq-CDSccY6Az9PFJxw?view_as=subscriber

また、国交省の下水道ホットインフォメーション他より、「ビストロ下水道」に関する YouTube の紹介がありました。URL をご紹介いたします。(2. は当倶楽部ビストロ下水道研究集会でも発表しました。)

1. BISTRO 下水道 in 鶴岡市 (山形県)：鶴岡市公式チャンネル

<https://www.youtube.com/watch?v=PJwQUh5UsQQ&list=LL&index=1>

2. 佐賀市下水道から地域資源循環 (じゅんかん発酵肥料)：佐賀市上下水道局

<https://www.youtube.com/watch?v=L4Wz1ajFwzc&list=LL&index=5>

3. 佐賀市下水道からの地域循環 (総合編)：佐賀市上下水道局

<https://www.youtube.com/watch?v=4vLv9saMqDg&list=LL&index=6>

会員だより

「予防注射」

中尾正和

ごく最近、肺炎球菌とインフルエンザの二つの予防注射を受けた。特に根拠はないが、コロナウィルスに感染した場合の軽症化を願ったものである。前者の時は、医師から言われた、激しい運動と熱い湯に入るのは避けてください、は守ったのだが、うっかり当日の夜にビールを飲んでしまった。寝入ってからしばらくすると痛みで目が覚めた。いつものように両腕を体の横に置いて寝ると、腕の重みで注射を打った左腕がさらに痛む。結局、左を上にする少し楽になるのでそのまま何か朝まで寝ることができた。これが数日続いて痛みが少し治まってくると、今度はかゆみが始まり痛みよりも我慢するのが大変だった。こうして1週間が過ぎてほぼ正常になった頃にインフルエンザの予防注射を受けた。今度は本人も自覚し、医師もアルコールはダメと説明してくれてそうしたので、無事に過ごせそう。両方同時に可と聞いているが、インフルエンザ用の在庫がなく、

結果的に二度に分かれた。ちなみにインフルエンザ予防注射は高齢者につき無料、肺炎球菌の方は有料で結構な額だった。70歳の時は無料だったのだが、後悔先に立たず、である。

これまでに受けた予防注射は、BCG(小学校/中学校)、コレラ(中学校)、黄熱病(これは41年前、初めての海外旅行+出張で)、破傷風、A型肝炎、そして今回の二つである。かなりの痛みを伴うBCG接種を避けるため、その前段階のツベルクリン反応の際に、友達と手で叩きあったり、何とか発赤の直径を10mm以上(これでBCG接種を免れる)にすべく自ら定規で叩いたことを思い出す。小学校6年から外国船の出入りする港町に住んでいて、一度だけコレラ騒動があった。住民全部だったのか、あるいは児童生徒だけだったのか記憶が定かではないが、中学生の時に検便に加えて予防注射を打たれた。これはこれまでの注射の中で一番痛いものだったと記憶している。

現在の新型コロナウイルス感染状況を見ると、効果も安全性も高い予防注射(ワクチン)が早く開発されることを願う。それまでは多少の窮屈さや不便さを厭うのではなく、何とか折り合いをつけながら過ごしていこうと考えている。

編集幹事のあと整理

- 毎号そうですが、会の事業活動があるたびにその報告を掲載するための発行となっています。今号は資源活用型下水道システム部会主催のオンライン研究集会です。執筆の清水顧問は同部会のトップを務められています。
- この報告文もそうですが、巻頭文、亀田顧問の報告、中尾会員の文章にもコロナ禍中でのご苦勞などが書かれており、NPOもまさにウィズコロナに突入した感があります。
- オンライン推進分科会が設立されその齋藤均事務局長から最近のオンライン開催などについての報告文三編をいただきました。開催そのものの報告文と併せてご覧下さい。
- 編集幹事のウィズコロナ対応としてはコロナ前より変わることはあまりないです。もともと、メールでの原稿のやりとり、発行のペーパーレス(web掲載)などとしていたからです。コロナの時代を先取りしたわけではなく、これらの簡便法が一番楽と思っていたからです。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月